



「セカイト」トピックス展示 『広がるシルクの活用方法』

かつて日本を支える産業であった養蚕・製糸業は、養蚕農家の高齢化等により、繭や生糸の生産量が大きく減少しています。しかし、いままで養蚕・製糸分野で培われた技術とシルクの特性を活かし、様々な分野で活用されています。

1. 展示内容

(1) 概要

遺伝子組み換え技術を利用した光る絹糸やシルク成分の化粧品、医療分野への応用など、新たに開発・活用されているシルク製品や技術を、「碓氷製糸¹」で現在生産されている絹製品とあわせて紹介します。

(2) パネル展示

- ① シルクはいろいろなことに活用されています
- ② 繭が蚕を守るための性質にはこんなスゴイ機能があった
- ③ 県内関係機関の紹介



シルク成分を配合した製品

(3) 実物展示

- ・ 蛍光繭（緑）
- ・ 繭（ぐんま200）、生糸（ぐんま200）
- ・ 絹織物製品（赤ちゃん用のおくるみ、マスク）
- ・ シルク成分を利用した化粧水、石鹸など



蛍光繭（緑）

2. 展示期間

令和6年1月1日（月・祝）～ 2月27日（火）

場所：群馬県立世界遺産センター「セカイト」 2階 トピックス展示コーナー

休館日：1月4日（木）、以降は毎週水曜日

¹ 碓氷製糸（正式名称は「碓氷製糸株式会社」）は、全国の7割の生糸を生産する日本最大の製糸工場です。